



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年10月31日

上場会社名 TDSE株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7046 URL http://www.tdse.jp
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 東垣 直樹
 問合せ先責任者（役職名） 取締役執行役員専務（氏名） 浦川 健（TEL）03-6383-3261
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家及び個人投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第2四半期の業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	1,246	14.5	115	△6.7	117	△6.0	80	40.4
2023年3月期第2四半期	1,088	48.2	124	106.0	125	106.2	57	41.8
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年3月期第2四半期	38.87		—					
2023年3月期第2四半期	27.83		—					

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	2,307	1,937	84.0
2023年3月期	2,339	1,869	79.9

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 1,937百万円 2023年3月期 1,869百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,589	7.2	281	5.7	281	5.1	195	15.5	94.30

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期2Q	2,200,000株	2023年3月期	2,200,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年3月期2Q	124,138株	2023年3月期	131,684株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期2Q	2,071,205株	2023年3月期2Q	2,061,304株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2023年11月6日(月)に機関投資家及び個人投資家向けの決算説明会を開催する予定です。

当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載及びTDnetに開示する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の国内経済は、新型コロナウイルス感染の行動制限の緩和により経済活動は回復しつつあるものの、その経済活動の回復や、ウクライナ情勢、円安等によるインフレならびに金利上昇等により、注意を要する状況は継続しております。

一方で、企業のデジタル活用の本質的な流れは、特に先進的なAIやIT技術を活用したDX市場において、中長期的な拡大が見込まれる状況が継続しております。

このような状況の下、今年度からスタートした中期経営計画「MISSION2025」の達成に向けて、コンサルティングサービスでは、長年培ったデータ解析およびAI構築技術を基にデータ活用の一気通貫したサービス提供を継続・強化するとともに、デジタルマーケティングを活用した新規顧客開拓と、既存顧客の深耕による「大規模×長期化」を継続して努めてまいりました。また、プロダクトサービスでは、自社開発を中心としてプロダクトのラインナップ強化を進め、7月に競合企業のSNSアカウントの分析が可能となる新製品 Quid Compete (旧Rival IQ) の提供を開始し、一方でQuid Monitor(10月にNetBaseから名称変更)では8月にOpenAI社のGPTと連携した『AISearch』を搭載しております。Cognigyでは、4月にOpenAI社のGPTを含む複数社のLLMと連携した機能を標準搭載しての提供を開始しております。

以上のとおり取組んできた結果、当第2四半期累計期間の業績においては、売上面では、コンサルティングサービスでは一部顧客で一旦の様子見の傾向があるものの複数の主要顧客の案件で「大規模×長期化」が進んでおります。プロダクトサービスではQuid Monitor、Cognigy共に新規顧客獲得が進んでいます。特にCognigyでの金融機関向けチャットボット構築案件の獲得継続もあり、全体では、売上高は1,246,405千円(前期比14.5%増)となりました。利益面では、中期経営計画の初年度ということもあり、更なる事業の拡大および成長のために当初より予定していた人件費・採用費・研究開発費と、案件増加に伴う外注費を前期比で増加させたこと等により、営業利益は115,731千円(前期比6.7%減)、経常利益は117,517千円(前期比6.0%減)となり、四半期純利益は80,513千円(前年同期は57,361千円の四半期純利益[注1])となりました。

注1：前年度においては、特別損失として特別功労金40,000千円が計上されています。

なお各四半期では、以下のとおりとなっております。

(千円)

	当第1四半期会計期間			当第2四半期会計期間			当第2四半期累計期間		
		前年同期実績	対前年同期増減		前年同期実績	対前年同期増減		前年同期実績	対前年同期増減
売上高	618,340	506,130	112,210	628,064	582,585	45,479	1,246,405	1,088,716	157,689
営業利益	38,503	41,352	-2,848	77,227	82,647	-5,420	115,731	124,000	-8,268
経常利益	39,315	41,860	-2,545	78,202	83,174	-4,972	117,517	125,035	-7,517
四半期純利益	26,224	384	25,840	54,288	56,977	-2,688	80,513	57,361	23,151

○コンサルティングサービス

データ経営を目指す企業向けにAIを中心とした統合型ソリューションサービスを提供しています。具体的には、企業のデジタルトランスフォーメーションを共に推進していくため、企業が進める事業戦略に沿う形で、データ活用のテーマ抽出→データ分析/AIモデル構築→AIシステム構築/実装→保守/チューニングに加え、教育まで一気通貫したコンサルティングサービスを提供しています。

○プロダクトサービス

自社および他社のAI製品ならびにサービスの製品販売、または業務特有のAIモジュール(※)を顧客企業に提供し、サービス利用料ならびに運用・保守料を受領するサービスです。当社独自AI製品や、ソーシャルリスニングツールの「Quid Monitor(旧NetBase)」、業務システムと連携し人との対話(自然言語)よりルーティン化された業務を自動化する対話型AIプラットフォーム製品「Cognigy」を提供しています。

※AIモジュール：異常検知や物体認識などのAIモデル(未学習モデルも含む)であり、業務システムやアプリケーション等に組み込む、AIシステムの根幹をなすもの。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ31,916千円減少し、2,307,759千円となりました。

(流動資産)

流動資産の残高は、前事業年度末と比べ17,676千円減少し、2,133,653千円となりました。これは主に売上高の増加に伴う前渡金の37,299千円増加および売掛金及び契約資産の25,212千円増加があるものの、納税等により現金及び預金が86,172千円減少等によるものであります。

(固定資産)

固定資産の残高は、前事業年度末と比べ14,239千円減少し、174,105千円となりました。これは主に繰延税金資産が取崩しにより20,175千円減少等によるものであります。

② 負債

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ100,416千円減少し、369,951千円となりました。

(流動負債)

流動負債の残高は、前事業年度末と比べ100,416千円減少し、349,951千円となりました。これは主に納税により未払法人税等の14,791千円減少および賞与支給による賞与引当金の82,613千円減少等によるものであります。

(固定負債)

固定負債の残高は、前事業年度末から変動なく、20,000千円となりました。

③ 純資産

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ68,499千円増加し、1,937,808千円となりました。これは主に配当金の支払いにより利益剰余金が20,683千円減少したものの、当第2四半期利益として80,513千円を計上等によるものであります。

④ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は1,689,399千円となり、前事業年度末1,775,572千円と比べ、86,172千円減少しました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、56,600千円（前年同四半期累計期間は38,451千円の使用）となりました。これは主に税引前四半期純利益119,093千円（前年同四半期累計期間は85,523千円）によるプラス要因、売上債権の増加及び賞与引当金の減少等のマイナス要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、9,716千円（前年同四半期累計期間は3,824千円の使用）となりました。これは主に保険積立金の積立によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、20,636千円（前年同四半期累計期間は20,464千円の使用）となりました。これは配当金の支払によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期以降においても、経済全体ではインフレや金利上昇による影響には留意する必要があると思われま
す。一方で、各企業のデジタルやAIの活用に対する投資意欲は引き続き強く、AI・ビッグデータ市場は成長が持続す
ることが予測されます。

当社では、中期経営計画「MISSION2025」の達成に向け、コンサルティングサービスでは、継続して「大規模×長
期化(LTV最大化)」につながる顧客との接点を増やし、また積極的な採用や教育等の人的資本の強化を図りながら成
長を加速させる方針です。プロダクトサービスでは、大手企業でニーズと実績がある複数のテーマから、多くの企
業で展開可能なテーマを抽出し、自社開発を中心としたプロダクトのラインアップの強化を継続し、生成AIを活用
した自社製品の「TDSE QAジェネレータ」ならびにAI画像解析サービス「TDSE Eye」の更なる開発を随時実施してま
います。併せて、デジタルマーケティングおよびパートナーネットワークの強化に引き続き努める方針です。

業績予想につきましては、2023年5月15日付で公表済の通期の業績予想に変更はありません。

上記業績予想は、当社が現在入手できる範囲で得られた情報をもとに作成した暫定的な業績予想であり、実際の
業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,775,572	1,689,399
売掛金及び契約資産	279,763	304,975
仕掛品	-	1,581
貯蔵品	241	59
前渡金	62,549	99,848
前払費用	33,066	36,494
その他	138	1,294
流動資産合計	2,151,330	2,133,653
固定資産		
有形固定資産		
建物	36,572	36,572
減価償却累計額	△24,437	△27,174
建物(純額)	12,134	9,398
工具、器具及び備品	2,942	2,942
減価償却累計額	△1,837	△1,986
工具、器具及び備品(純額)	1,104	955
リース資産	2,279	2,279
減価償却累計額	△189	△1,329
リース資産(純額)	2,089	949
有形固定資産合計	15,327	11,303
無形固定資産		
ソフトウェア	13,357	13,685
ソフトウェア仮勘定	2,600	2,775
無形固定資産合計	15,957	16,460
投資その他の資産		
長期前払費用	3,516	6,518
繰延税金資産	60,751	40,575
敷金及び保証金	74,220	74,220
その他	18,570	25,025
投資その他の資産合計	157,059	146,341
固定資産合計	188,345	174,105
資産合計	2,339,675	2,307,759

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	49,755	42,609
リース債務	2,506	1,226
未払金	49,493	19,908
未払費用	36,770	52,188
未払法人税等	43,250	28,459
未払消費税等	51,120	25,989
前受金	92,694	113,846
預り金	13,600	37,162
賞与引当金	111,174	28,560
流動負債合計	450,367	349,951
固定負債		
資産除去債務	20,000	20,000
固定負債合計	20,000	20,000
負債合計	470,367	369,951
純資産の部		
株主資本		
資本金	833,180	833,180
資本剰余金	296,524	302,549
利益剰余金	785,758	845,588
自己株式	△46,154	△43,510
株主資本合計	1,869,308	1,937,808
純資産合計	1,869,308	1,937,808
負債純資産合計	2,339,675	2,307,759

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	1,088,716	1,246,405
売上原価	695,121	816,503
売上総利益	393,594	429,901
販売費及び一般管理費	269,594	314,170
営業利益	124,000	115,731
営業外収益		
受取利息	8	8
為替差益	94	780
確定拠出年金返還金	660	675
その他	272	321
営業外収益合計	1,035	1,786
経常利益	125,035	117,517
特別利益		
保険解約返戻金	488	1,576
特別利益合計	488	1,576
特別損失		
特別功労金	40,000	-
特別損失合計	40,000	-
税引前四半期純利益	85,523	119,093
法人税、住民税及び事業税	17,146	18,405
法人税等調整額	11,015	20,175
法人税等合計	28,162	38,580
四半期純利益	57,361	80,513

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	85,523	119,093
減価償却費	4,854	6,297
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△24,079	△82,613
株式報酬費用	6,563	8,669
受取利息	△8	△8
為替差損益 (△は益)	△230	△780
特別功労金	40,000	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△32,951	△25,212
棚卸資産の増減額 (△は増加)	291	△1,399
仕入債務の増減額 (△は減少)	18,234	△7,146
未払金の増減額 (△は減少)	△8,292	△27,922
その他の資産の増減額 (△は増加)	△17,177	△44,900
その他の負債の増減額 (△は減少)	△18,478	32,651
小計	54,249	△23,271
利息の受取額	6	7
特別功労金の支払額	△40,000	-
法人税等の支払額	△52,707	△33,336
営業活動によるキャッシュ・フロー	△38,451	△56,600
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	-	△3,275
保険積立金の解約による収入	2,692	1,576
保険積立金の積立による支出	△6,517	△8,017
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,824	△9,716
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△20,464	△20,636
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,464	△20,636
現金及び現金同等物に係る換算差額	230	780
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△62,509	△86,172
現金及び現金同等物の期首残高	1,613,509	1,775,572
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,550,999	1,689,399

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、ビッグデータ・AIソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。